



とちぎの縄文土器

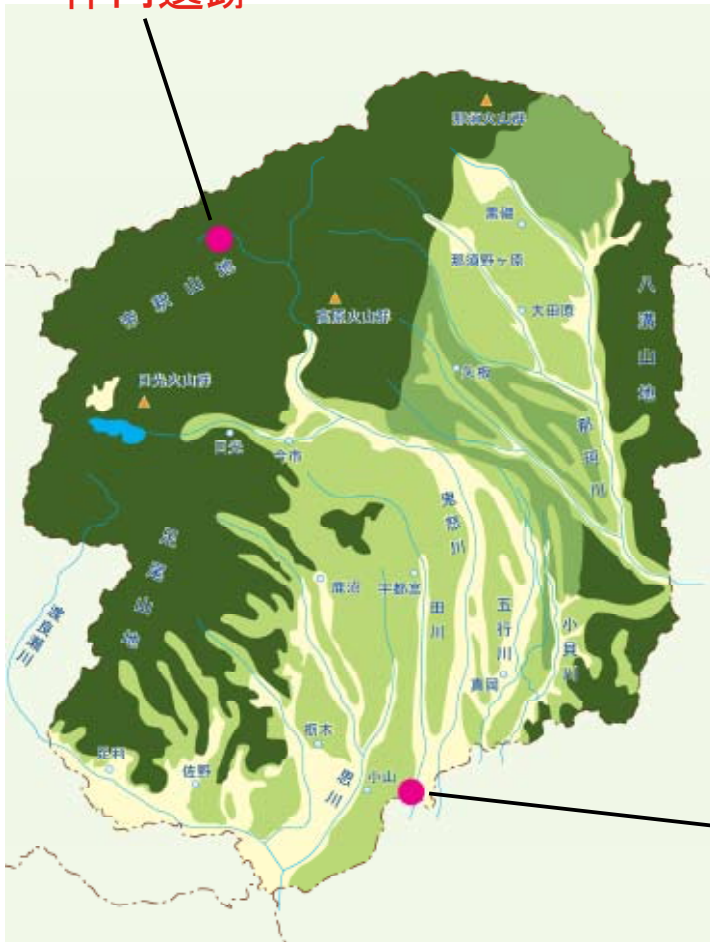
— 今から 4,500 年前の北と南 —



期間：平成 21 年 8 月 1 日（土）～ 10 月 19 日（月）

場所：県庁本館 2 階 県民プラザ前 ガラスショーケース

なかうちいせき
仲内遺跡



てらのひがしいせき
寺野東遺跡

80 km も離れた栃木県北端の日光市仲内遺跡と南端の小山市寺野東遺跡。今から 4,500 年前のそれぞれの縄文土器の華やかな装飾の中に、遙か昔の県北と県南の地域性を感じてみてください。

財団法人 とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター
〒 329 - 0418 栃木県下野市紫 4 7 4 番地
TEL 0285-44-8441 FAX 0285-44-8445

なかうちいせき

仲内遺跡 - 日光市湯西川字井戸沢-

仲内遺跡の発掘調査は、平成 11 年から国土交通省による湯西川ダム建設関連工事に先立って行われました。

調査では、縄文時代中期（今から約 4,000 - 5,000 年前）の^{たてあなじゆうきよあと}堅穴住居跡 23 軒、^{どこう}土坑（木の実の貯蔵穴やお墓などの穴）375 基などが発見されました。なお、堅穴住居跡や土坑は、同じ場所で何度も作りかえられたようです。

堅穴住居跡には、この時期、東北地方南部で発達する複式炉^{ふくしきろ}と呼ばれる独特の^{いろり}囲炉裏が作られるものが多く、貯蔵用の穴は、入り口が狭く底が広い巾着袋^{きんちやくぶくろ}に似た形状のものが流行します。

出土した土器は、東北南部はもちろんのこと、新潟県と共通する文様の土器がたくさん見つかっています。

なお、集落の中央に位置する土坑からは、ヒスイ製の胸飾り^{むねかざ}（硬玉製大珠^{こうぎよくせいたいしゆ}）が出土しており、この集落の有力者のお墓であったと思われます。



堅穴住居跡



土坑（お墓）



硬玉製大珠



縄文土器（約 4500 年前）



縄文土器（約 4500 年前）



発掘調査風景

てらのひがしいせき

寺野東遺跡 - 小山市大字築 -

寺野東遺跡の発掘調査は、平成 2 年から 5 年間、小山東部地区工業用地造成に先立って行われました。「縄文時代の土木工事跡」として報道された縄文時代後期一晩期（今から約 4,000 - 2,500 年前）の環状盛土遺構^{かんじょうもりつちいこう}や水場遺構^{みずばいこう}が確認され、平成 7 年 11 月には国史跡の指定を受けました。現在は、「おやま縄文まつりの広場」として整備され、広く活用されています。

また、同じ場所から縄文時代中期（今から約 4,000 - 5,000 年前）の^{たてあなじゆうきよあと}堅穴住居跡 75 軒、^{どこう}土坑（木の実の貯蔵穴やお墓などの穴）1,000 基以上が発見されており、すでにこの地域の中核的な集落が存在したことが明らかになりました。

出土した土器をみると、利根川下流域の茨城県や千葉県などと共通する文様のものが、たくさん出土しています。ほかにも、関東西部や東北南部と共通する文様の土器も出土しており、広い交流をうかがうことができます。



縄文土器出土状況